

市民ワークショップ等の結果

市民意見については、平成28年9月10日に行われた20～70歳の幅広い年代の市民を対象としたワークショップに加え、審議委員のEPO北海道の大崎委員のご協力のもと、実践者、外国人を対象にした意見を収集した。これらの意見についても、第2次札幌市環境基本計画策定にあたっての検討材料とする。

① 実践者向けワークショップ

実践者と考える2050年の「環境首都・SAPPORO（仮）」

日時：平成28年8月30日（火）13:30～16:30

会場：札幌市環境プラザ 研修室1・2

主催：EPO北海道 共催：札幌市環境局

協力：札幌市環境プラザ、株式会社KITABA

参加者：21名、NPO等の市民活動団体、環境系コンサルタント等



意見交換のテーマ

①「環境首都・SAPPORO（仮）」で目指すテーマの具体的なイメージ

②「環境首都・SAPPORO（仮）」で目指すテーマの取組内容

「低炭素なまち」「エネルギーを有効利用したまち」「循環型のまち」「自然と共生したまち」の4グループで意見交換を実施。コンパクトシティや交通体系などのまちづくり全般のテーマが共通のキーワードとして出されており、都市計画のタイアップが必要との意見が出されていた。その他、身近な暮らしに関する意見として、住宅に関する意見やライフスタイルについてのテーマが出されていた。継続して活動されている実践者の方の意見として、環境行動に対するインセンティブの必要性が出されていた。また、環境首都の実現のためには、研究機関の設置や、市民や団体が政策提言できる組織をつくる必要があると仕組みに関する意見が出されていた。

■目指す姿・取組みに関するアイデア

**【エネルギー】**

■省エネルギーが進んでいるまち

- ・エネルギー効率の良い住宅やビルになっている
- ・無駄に暑くしたり寒くしたりしない
- ・携帯でエネルギーやCO2を管理する

エネルギーが見える化されている

■再生可能エネルギー・自然エネルギーの活用が進んでいるまち

- ・再生可能エネルギーがもっと普及している
- ・年間を通して温度変化の少ない地中熱を使って冷房する
- ・ごみの焼却熱で地域に熱を供給する

**【ごみ・リサイクル】**

■リサイクルが進んでいるまち

- ・再利用（リユース）が常識となっている
- ・全てのをリサイクルされている
- ・ごみは燃料としてエネルギーを利用されている
- ・燃やせるごみをさらに細分化し資源にしている
- ・食べ残しをしない生活になっている
- ・賞味期限に近い食品も捨てないように利用できる仕組みがある

**【産業・技術開発】**

■産業への貢献

- ・市内の森林を木質ペレットなどで暖房に活用
- ・林業でリタイヤ後の人材活用にもつながる

■環境負荷の少ない技術開発の推進

- ・環境に優しい、住宅・ビルなどのまちづくり
- ・特に冬に有効な移動方法が確立されている
- ・ごみにならない商品の開発

**【交通】**

■エネルギーを使わない交通システムがあるまち

- ・エコな自動車の普及（ガソリンを使わない）
- ・公共交通を充実させる
- ・自転車の推進（自転車レーンの推進）

■歩いて暮らせるまち・車に頼らないまち

- ・市街地は車の流入を禁止して、歩けるまちになっている

■みどり豊かなまち

- ・街中にも緑がいっぱいある
- ・街路樹が郷土種になっている
- ・地域で管理する畑ができる

**【ライフスタイル】**

■自然に親しむ暮らしのあるまち

- ・子どもも大人も川や森で遊んでいる

■自然と共存（自然に逆らわない）するまち

- ・厚着など、気候に合わせた生活をする
- ・エネルギーを使わずに生活を楽しむことを教える
- ・冬は暖かい場所で生活して暖房費を抑える

■環境意識の高い市民が住むまち

- ・地元のものを地元で買う
- ・無駄なものを買わない無駄なものを買わない

② 外国人のグループインタビュー

日時：平成28年9月2日（金）10:00～12:00

会場：札幌市国際プラザ

主催：EPO北海道 協力：国際プラザ

参加者：ドイツ、中国、韓国の国際交流員



【札幌の環境のすてきなところ】

- 世界的な環境首都になれる可能性
  - ・中国人にとって、北海道の環境は素晴らしいとしか感じないです。
  - ・空気もおいしい、緑も多くあるというイメージです。（中国）
  - ・ミュンヘンクリスマス市ではリサイクル食器を利用され、雪を保存してエネルギーとして活用されていることにも驚きました。（韓国）
- 自然と共生し、調和した都市
  - ・中島公園は、Kitaraや天文台など見どころが多く、自然と人間が一緒にどのように生きていくかを示す場所であると思います。（ドイツ）
  - ・大通公園は、季節毎にイベントがあり、開放的で都市と調和していると感じます。（中国）
  - ・札幌市内は散歩だけでも公園が目に入ります。
  - ・避難所にもなっていることがステキです。
  - ・札幌市は身近に動物がいることが驚きました。（中国）
- 清潔なまちと市民意識の高さ
  - ・札幌市はゴミ箱が少ないのに、ゴミが少ない（ポイ捨てが少ない）と思いました。（韓国）
  - ・また、ゴミが少ないことから環境保護は普通であると市民の意識があると思いました。（ドイツ）

【海外の取組み】

- 高断熱住宅
 

ドイツの住宅は断熱がきちんとしていますので、エアコンがなかったり、暖房の使用頻度も低いです。（ドイツ）
- ライフスタイルを順応
 

私の感覚では日本は冷房を入れすぎていると思います。ドイツには「悪い天気や悪い温度が存在するわけではなく、悪い服装が存在する」という慣用語があり、自然に合わせた生き方をしています。（ドイツ）
- 食べ物をごみにしない
 

飲食店の生ゴミを減らすために、お持ち帰りを推奨しています。（中国）
- ビニールごみの削減
 

ドイツでは、ビニール袋が欲しいと言わないともらえないです。（ドイツ）
- 生ごみの削減
 

私の住んでいたところは捨てた重さで毎月支払う料金が決まるという仕組みができ、生ゴミの水切りをよくするようになりました。札幌では、生ごみを燃えるゴミと一緒に入れることに驚きました。（韓国）
- 緑化の取組
 

町をあげた植林活動をしています。出身地の大邱（テグ）では、1996～2014年まで100万本の木を住民に配布したようです。実際に温度が1度下がったという実績もできました。（韓国）
- 【環境首都の実現に向けて】
- 環境教育の重要性
 

子どもの時から自然は大切であるという意識を持ちながら育つ必要があると思います。札幌市はすでに行われていると思いますが、もっと増やしてもいいと思います。（ドイツ）
- 海外への発信力を強化
 

札幌市の良い環境の情報がアプリなどで確認できると良いと思います。（中国）

韓国の公務員が視察に来ることもあるので札幌市の環境について宣伝ができるパンフレットなどがあるとよいと思います。（韓国）

③市民ワークショップ（速報）

みんなで考えるワークショップ ～札幌の環境のこれから～

日時：平成28年9月10日（土）13:00～16:30

会場：北海道大学学術交流会館 第1会議室

参加者：67人（年齢、性別、居住地を考慮して抽出した市民4,000人のうち、参加希望者の中から抽選で85人を選考）



意見交換のテーマ

- ① 環境首都・SAPPORO（仮）で目指す姿のイメージ（30分）
- ② 環境首都・SAPPORO（仮）で目指す姿の実現に向けた取組内容（45分）
- ③ 大切な取り組み・取り組むべきことへのシール投票



意見交換1：2050年の環境首都 SAPPORO（仮）のイメージについて自由意見を出してもらった。

■出された主な意見（比較的多く出された意見）

- 車を極力使わないライフスタイル
- 自転車の活用
- 自然を保全する
- まちなかにみどりが多い
- 雪を利用する
- 住宅は高気密高断熱
- 再生可能エネルギーの導入
- 水素の活用
- 木質などのバイオマスの導入
- 環境首都として世界に知られている・世界から人が訪れている

意見交換2：テーマごとの意見交換

12のグループを4つのテーマに分けて大切な取り組み、取り組めるアイデアなどを出してもらい、そこから、参加者が思う大切な取り組み・取り組むべきことを明確にするため、シール投票で重みづけを行った。

1) 低炭素なまち

- ① エコな取り組みをする人が得をして、取り組みをしない人が損をするしくみ（32/67）  
電気・ガスなどのエネルギー、エコポイント、歩いて暮らす場合のインセンティブをつけるなど
- ② 公共交通の充実（11/67）  
公共交通の本数を増やすなどする
- ③ 車に頼らない生活（ライフスタイル）の推進（10/67）  
自転車道（屋根付き・地下の自転車道も）や動く歩道の充実
- ④ まちなかに入る自動車から税金を徴収する（7/67）  
税金は緑化などに活用する

2) エネルギーを有効活用したまち

- ① 公共施設と大企業の雪冷房導入を推進させ義務化する（18/67）
- ② 雪を有効利用する（家庭レベル）（18/67）  
雪の貯蔵による冷房、除雪の労力をエネルギーとして活用
- ③ CO2も活用するまち（11/67）  
排出されるCO2を農業などに活用する
- ④ 地域エネルギーの推進（10/67）  
排出されるゴミなどを地域のエネルギーとして地域で活用する  
地域熱供給システムを推進する

3) 資源のむだづかいとごみを減らしたまち

- ① 生ごみは分けて分別し、生ごみを簡単に捨てやすい仕組みをつくる（21/67）  
生ごみを毎日捨てられる、回収拠点がある
- ② 世代に合わせた情報発信による市民への意識啓発（14/67）  
様々なメディアを活用、若い世代はスマホ、高齢者は広報や紙媒体など
- ③ 衣類の再利用の推進（10/67）  
布団、衣類、学生の制服等、再利用できるものを増やし、行政・業者が回収及び情報提供を行なう

4) 緑が豊かで自然と共生したまち

- ① 将来を見据えた、森や街中の緑の維持管理計画を策定し、進めていく（22/67）  
防災の視点を含む
- ② 札幌市のみどりの認定制度（9/67）  
樹木を植えた企業・家庭に認定ステッカーを進呈。補助金や減税などのインセンティブをつける。
- ③ 野生動物との共存のためのマナーの啓発  
子どもたちへの教育や外国人観光客へのマナー発信を行なう（9/67）

■今後実施予定

④子どもの意見反映

子ども議会からの提言

子ども議会で議論を行うテーマの一つに環境保全が採択され、札幌市民全員が環境保全行動を行う方法について、提言を行なう。年末に提言がまとまり、その後の審議会で資料として提出予定。

⑤冬のワークショップ

日時：平成29年2月18日（土）13:00～16:30

会場：北海道大学学術交流会館

※市民の環境の意識レベルを上げる取組等の人材育成について意見交換を行なう予定。（プログラムの詳細は未定）